

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際キッズサポート(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 22日		～ R6年 11月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R6年 10月 21日		～ R6年 10月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 26日		

○ 分析結果

公表日

令和7年1月31日

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異文化での保育、教育に対する不安や困難に対するサポート	子ども園の日程や行事、ご利用者についての連絡調整に対するサポート	もっと密に、子ども園学校との連絡、保護者の意思の伝達を行いたい。
2	兄弟の発達課題と照らし合わせてのサポート、兄弟関係の中でのサポート	兄弟が発達障がいのご利用の場合、同じ発達過程にあるのか、環境的要因のみなのかなど、総合的に考えサポートしていくことができる。	さらに、兄弟間の関係を考えながら、総合的な支援を行う。
3	異年齢の交流により、よりコミュニケーションのトレーニングとなり、良い効果を生み出している。	大人だけが接するのではなく、自然に生み出される異年齢同士の交流を見守っている。危険回避や調整の必要には敏感に対応している。	限られた指導員だけではなく、すべての指導員がコミュニケーションのサポートに敏感な判断ができるようになるよう取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言葉の壁により、難しい研修の言語の理解に困難であり、内容が簡潔化してしまう。	2か国言語での同じ内容の研修資料を使用するが、内容にばらつきがある。	できるだけ近い内容のポルトガル語映像、動画を探す。
2	ブラジル系、フィリピン系と、食文化に差があり、そこに偏食が加わると、おやつ選択に困っている。	皆同じおやつが必要があるか？食べられるものの選択がよいか？	好き嫌いの程度にもよるが、一口食べてみる経験も支援として捉えると良いかもしれない。乳児に対しては、その発達段階に合わせる。
3	工作・運動等、年齢や好みのばらつきがあり、一斉に同じことをすることが困難。	年齢差・利用時間差・好みの差	同じ素材・同じ場所で、個々の年齢、好みに寄り添ったものを提供していく。乳児に関しては、その発達段階に合わせる。